

| 特集 |

“消去法”で考え直す

抗菌薬

選択

のセオリー

広域に考え、狭域に始める

企画 | 青木洋介

抗菌薬適正使用の実践には「適切な薬剤の選択」が重要です。
しかし、「適切な」薬剤の判断は医師ごとに異なる場合もあり、
また1つの薬剤だけが正解という状況も多くはありません。

たとえば、身体に「良い」食物をあげることは難しいですが、
「良くない」食物は連想できます。

(とても脂っこい、あるいは塩辛い、甘すぎる、熱すぎる食べ物でしょうか)
これらを避けることが、身体により良い物を食すことにつながるように、
抗菌薬選択でも「不適切な」薬剤を避けることが、
「より適切な」薬剤の使用につながります。

通常の試験問題では「正しいのはどれか?」という形式が推奨されます。

しかし実際の臨床では、“正解”がよくわからない場面もあります。
このような場合、「“不正解”あるいは“不要と判断するもの”以外から選択する」
という、“消去法”のアプローチは一考の価値があります。

「ピンポイントな正解かどうかはわからないが、間違いではない」
という判断を積み上げるほうが、
「最適な抗菌薬を1つ選ばなければならない」と考えるより安心であり、
周囲も受け入れやすいのではないのでしょうか。

本特集では、初期治療薬として
「必要性が低い抗菌薬はどれか?」という視点をもつことで、
広域に考えつつ、より狭域で適正な抗菌薬選択を行うことを企図しました。

今月の Questions

Q1

抗菌薬の「投与対象」と「効果」には、
どのようなものがあるか?

>>> 772